



埼玉県言語聴覚士会

# 「互いの顔が見える県士会」を合言葉に、 連携のとれた地域貢献を目標に 活動しています

広報・情報部 山口 勇主

埼玉県は首都圏のベッドタウンとして発展し、少し足を伸ばせば自然にも恵まれた土地です。反面、医療の面では人口当たりの病院数は少なく、県内でも東京近郊とその他では病院・施設などの数やアクセシビリティに差があります。そのため、利便性向上のための医療従事者同士のネットワーク作りも課題の一つです。そんな地域性に立脚して活動する、埼玉県言語聴覚士会をご紹介します。

## 埼玉県言語聴覚士会とは

当会は平成15年5月に設立され、今年で11年を迎えます。

現在会員数は正会員338名、準会員7名の計345名で活動しています。昨年度から活動に賛同いただける法人に賛助会員になっていただき、現在3社のご協力を得ています。

組織は、事務局、渉外部、学術研修部、医療部、地域リハビリテーション部、広報・情報部、企画部に分かれ、その他に東西南北4カ所の地域別支部での活動、学術研修部の下部組織として専門領域ごとの障害別支部での活動を行っています。地域別支部で県内の地域ごとの特性を活か

した活動を行い、障害別支部で各会員の専門性に沿った研鑽や地域貢献を図っています。

## 具体的な活動と連携

地域リハビリテーション部では、埼玉県理学療法士会、埼玉県作業療法士会と合同で訪問リハビリテーション実務者研修会、地域リハビリテーション研修会などの研修を行ってきました。

広報・情報部では、年2回のニュースの発刊、ホームページの作成・管理を行っています。

企画部では、一般の方々を対象に失語症会話パートナーの養成講座を開催しています。



支部別ミーティング



総会パネルディスカッション



「今、言語聴覚士に求められるもの ～その魅力と展望～」をテーマに記念講演が行われました



和やかな雰囲気の中、祝賀会が催されました

地域別支部では、定期的な会合を開き地域の情報交換や研修会の開催などを行い、普段から顔を合わせて地域に根差した連携を行っていくことを目指しています。また、県士会全体で年度ごとに行う総会は、地域別支部が交代で開催を受け持ち、県士会参加への意識を高めていくことや、地域ごとの特色をお互いに知ることができるような仕組みをとっています。

障害別支部は、高次脳系、運動系、小児・聴覚系と領域ごとに研修や地域での活動を行っています。

小児分野では、平成24年度より埼玉県福祉部と三士会の合同で、「埼玉県の発達障害児支援に係る専門研修会」の開催が始まり、平成25年度は、さらに埼玉県臨床心理士会、日本臨床発達心理士会埼玉支部も加わる形となりました。

県内の他職種との連携も推進しており、埼玉県地域リハビリテーション推進協議会の構成員としての活動、埼玉県看護協会の医療安全対策に関する事業への協力、埼玉県医師会と三士会での震災復興支援活動など、少しずつ活動の幅を拓けています。

## 一般の方々への働きかけ

また、県内の方々がりハビリテーションを受けられる施設を探す際のガイドとなるよう、療育先を探している方のために小児療育マップを作成してホームページへの掲載を行っています。併せて訪問リハビリテーションマップなどの作成も進めており、県内の言語聴覚士が在籍する施設の把握に努めています。

昨年11月には、「埼玉県言語聴覚士会10周年記念講演会・祝賀会」をさいたま新都心ラフレさいたまで開催しました。当会会長による記念講演を行い、祝賀会では日本言語聴覚士協会の深浦順一会長をはじめ関係団体の方々のご

出席をいただき、多数の会員の参加もあり大変盛況な会となりました。活動10周年の区切りとなるとともに、当会の活動を内外に示し、今後の活動に向けた一里塚となったと思います。今後10周年記念誌の発行も予定しています。

昨年度には、当会の活動を知っていただくためのリーフレットを作成しました。今後、各機関への配布やホームページへの掲載を行い、埼玉県での言語聴覚士の活動について広く伝えていくことができたらと考えています。ぜひ、機会があればご覧いただきたく存じます。

## これからの展望

本年度秋には、協会の全国研修会と言語聴覚の日のイベントを計画しています。近隣の他都県士会の皆様にもご参加いただければ幸いです。

また、当会は現在、公的な団体として社会的な信用を得て、より公益性の高い活動を行っていくために一般社団法人への移行を検討しています。今後も、「互いの顔が見える県士会」を合言葉に会員同士の連携を高めながら、地域のリハビリテーション環境の向上を図るよう、努めていきたいと考えています。

今後とも埼玉県言語聴覚士会をどうぞよろしく願い申し上げます。

